2014 年度

事業報告書

2014 年 4 月 1 日から
2015 年 3 月 31 日まで

公益社団法人日本麻酔科学会

法人の概要

日本麻酔科学会の大きな使命は，安全で質の高い医療を提供するための事業活動を通して，国民の健康と福祉の増進に寄与することである．本学会はこの使命を達成するため，これまで麻酔科専門医の育成や国民への啓発をはじめとする種々の取り組みを行ってきた．2011年4月1日に公益社団法人に認定され，本学会の社会貢献の役割が更に明確化されたところである．

本学会の発展と向上のためには，多岐にわたる情報収集と的確な状況把握が不可欠であり，「日本麻酔科学会中期・長期計画」を 2008 年度に策定，2011 年度，2014 年度に改定した．それに基づき単年度の事業計画を作成している．

１．　役員　（2015 年 3 月 31 日現在）

理事長（代表理事）　外　須美夫（理事）

常務理事　山田　芳嗣（理事（副理事長））上村　裕一（理事）齋藤　繁（理事）
西脇　公俊（理事）　工藤　一大（理事（事務局長））

理　　事　有村　敏明　上山　博史　尾﨑　眞　木内　恵子　齊藤　洋司
坂本　篤裕　白石　義人　須加原一博　鈴木　健二　鈴木　利保
住田　臣造　中尾　慎一　廣田　和美　横山　正尚

監　　事　森田　潔　古家　仁　岩崎　寛

２．　代議員　271 名（2015 年 3 月 31 日現在）

青江　知彦　赤田　信二　赤塚　正文　足立　健彦　天谷　文昌　有村　敏明　安藤　富男
飯田　宏樹　五十嵐　孝　石川　岳彦　石田　和慶　出田眞一郎　五十洲　剛　磯野　史朗
市川　敬太　一瀬　廣道　稲垣　喜三　稲田　英一　猪股　伸一　伊波　寛　伊良波　浩
岩崎　寛　岩瀬　良範　岩波　悦勝　上山　博史　牛島　一男　内野　博之　梅垣　修
梅田英一郎　江﨑　公明　大久保和章　大島　正行　大瀬戸清茂　太田宗一郎　太田助十郎
大塚　直樹　大西　佳彦　大平　直子　近江　明文　岡　龍弘　岡本　浩嗣　岡安　理司
於川　勝美　小川　賢一　奥田　泰久　奥谷　龍　奥富　俊之　小倉　信　尾﨑　眞
小澤　章子　忍田　純哉　小野　和身　小幡　英章　甲斐　哲也　貝沼　関志　香川　哲郎
垣内　英樹　風間　富栄　樫本　温　門井　雄司　加藤　孝澄　上農　喜朗　狩谷　伸享
川上　浩文　川口　昌彦　川崎　孝一　川崎　貴士　川股　知之　川真田樹人　川村　隆枝
河本　昌志　管　桂一　上村　裕一　北浦　道夫　北口　勝康　北村　晶　木内　恵子
木下　博之　金　徹　木村　信行　櫛方　哲也　工藤　一大　国元　文生　倉橋　清泰
黒澤　伸　小板橋俊哉　小出　康弘　後藤　隆久　小林　俊哉　小林　佳郎　小森万希子
小山　薫　金　正　近藤　修　最首　俊夫　斎藤　重行　齋藤　繁　齊藤　洋司
境田　康二　坂口　嘉郎　坂本　篤裕　笹野　寛　佐多　竹良　佐藤　重仁　佐藤　淳
佐藤　大三　佐和　貞治　澤村　成史　塩川　泰啓　志賀　達哉　重松次郎昌幸　重見　研司
設楽　敏朗　清水　淳　下村　俊行　下山　恵美　白石　義人　白神豪太郎　須加原一博
杉田　道子　杉本季久造　杉山　和英　鈴木　健二　鈴木　健雄　鈴木　利保　鈴木　康之
角倉　弘行　住田　臣造　瀬尾　勝弘　瀬川　一　関口　芳弘　瀬戸　倫義　世良田和幸
芹田　良平　其田　一　祖父江和哉　多賀紀一郎　髙石　和　高雄由美子　高崎　康史
高橋　浩　瀧田　恒一　竹内　護　武田　明雄　竹中　元康　田代　雅文　多田　文彦
多田羅恒雄　舘田　武志　田中　克哉　田中　誠　田中　源重　谷口　正彦　玉井　久義
中馬理一郎　津崎　晃一　土田　英昭　恒吉　勇男　坪内　宏樹　坪川　恒久　寺井　岳三
寺嶋　克幸　照井　克生　土井　克史　遠山　一喜　時岡　宏明　中尾　慎一　長尾乃婦子
中尾　正和　中澤　弘一　永田　博文　中塚　秀輝　中村　達雄　中村不二雄　中村　正人
長櫓　巧　新見　能成　西川　精宣　西川　光一　西川　俊昭　西田　修　西村　信哉
西山　友貴　西脇　公俊　野村　実　萩平　哲　橋口　清明　橋本　悟　馬場　知子
馬場　洋　濱口　眞輔　濱田　宏　林　行雄　肥川　義雄　尾頭希代子　尾藤　博保
日野原　宏　平川奈緒美　廣田　和美　広田　喜一　福崎　誠　福重　哲志　福田　和彦
福田　悟　藤井ひとみ　藤田　喜久　藤村　直幸　藤原　祥裕　古家　仁　外　須美夫
堀口　剛　前川　信博　前原　康宏　槇田　浩史　槇田　徹次　松井　秀明　松川　隆

松永　明	松本　晶平	松本　富吉	松本美志也	松本　睦子	眞鍋　治彦	間渕　則文
間宮　敬子	水野圭一郎	水本　一弘	溝渕　知司	溝部　俊樹	光畑　裕正	南　敏明
宮澤　典子	宮部　雅幸	村尾　浩平	村川　雅洋	室園美智博	森　隆	森　美也子
森﨑　浩	森田　潔	森松　博史	森本　裕二	森山　潔	森脇　克行	諸岡　浩明
安田　誠一	山内　正憲	山浦　健	山蔭　道明	山口　重樹	山﨑　隆史	山崎　光章
山田　光輝	山田　達也	山田　徳洪	山田　芳嗣	山本　達郎	横井　雅一	横田　美幸
横野　諭	横山　正尚	吉川　大輔	吉田　仁	米井　昭智	萬　知子	萬家　俊博
渡邊　昭彦	渡邊　至	渡邊　啓介	渡辺　裕生	渡辺　博		

３．　事業の概要

本学会は，以下の理念を掲げ事業を行う．

公益社団法人日本麻酔科学会（以下，本学会という）は，周術期の患者管理を中心としながら，救急医療，集中治療，疼痛管理，緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で安心できる医療を提供する．

（１）質の高い麻酔科医の育成

質の高い麻酔科医とは，周術期管理，侵襲制御，疼痛管理等において優れた知識と技術，およびコミュニケーション能力を有し，チーム医療を中心的に担える者である．本学会は知識や技術，能力を習得するためソフト面およびハード面を整備し，次世代の日本の医療を十分に担う質の高い麻酔科医を多く育成する．

（２）先進的研究の推進と新たな医療技術の創成

医療において人類の幸福に役立つ新しい知見や技術の創成が重要である．本学会はそのような研究を支援し，得られた発見（知見）や技術，情報を社会に提供する．

（３）麻酔科医療の啓発

国民が安全で安心できる医療を受けるには，国民に対し麻酔科医療に関する正しい知識や認識を提供する必要がある．本学会は広報活動や日常の診療を通じて国民に麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し，その認識を普及させる．また，医学生や研修医に対しても麻酔科関連医療の重要性を啓発し，麻酔科専門医の拡充を図る．

（４）他領域との協働

患者中心の安全で質の高い医療を供給するために，本学会は他科の医師や看護師，薬剤師，臨床工学技士などのコメディカルと真のチーム医療として周術期管理チームを組織し，それを実践する基盤を確立する．

（５）国際的な医療連携への貢献

麻酔関連領域における国際的医療水準を高めることは重要である．本学会は世界各国との連携のもとに国際的な医療人の育成や組織作りを推進する．世界麻酔科学会（WFSA）及びアジア・オーストラレーシア地区(AARS)の一員として，とくにアジア地域と人材および知識交流に努める．

４．　事業の区分

理念に基づく事業区分を公益法人申請にあたり，以下の通りとした．

（１）公益目的事業

公１麻酔科学の新たな発展のために国内外の先端的研究を奨励・推進・支援し，あわせて国内外の関連学術団体をはじめ関係方面と研究・協力を行い，もって新しい技術と正しい知識の普及・啓発を図り，その成果を社会に還元する事業**（学術事業・交流事業）**

公２麻酔科関連業務に関わる者が専門的知識や技術を習得するために，研修ならびに医師，医療従事者及び施設への審査・認定を実施し，あわせて麻酔科関連医療に関わる調査および研究の推進を図り，特に麻酔科関連の事故症例の検証により再発防止に努め，もって社会に安全で良質な医療を提供するための事業**（教育事業・安全事業）**

公３ 一般市民が安全で安心できる医療を受けるために，医療に関する正しい知識や認識の向上を図り，さらに麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し，普及させる事業**（公益事業）**

（２）収益事業等

収１医師賠償責任保険の加入仲介事業

収２展示出展事業

（3）その他（管理運営部門）

5．　社員総会・理事会報告

第1回　理事会
1．日　時：2014年4月20日（日）　13：00～15：00
2．場　所：日本麻酔科学会　神戸事務局
3．理　事：19名　監事：2名
4．出席者：理事19名　監事1名

第3回　定時社員総会
1．日　時：2014年5月14日（水）　14：00～15:00
2．場　所：パシフィコ横浜 国立大ホール
3．社員数：277名
4．理事現在数：20名
5．理事出席者数：20名
6．出席者数：261名（うち委任状19，議決権行使書30）

第2回　理事会
1．日　時：2014年8月22日（金）　13：00～17:00
2．場　所：日本麻酔科学会　神戸事務局
3．理　事：20名　監事：3名
4．出席者：理事17名　監事1名

第3回　理事会
1．日　時：2014年11月28日（金）　13：30～16:45
2．場　所：日本麻酔科学会　神戸事務局
3．理　事：20名　監事：3名
4．出席者：理事20名　監事1名

第4回　理事会
1．日　時：2015年3月27日（金）　13：00～16：15
2．場　所：日本麻酔科学会　神戸事務局・東京事務所
3．理　事：20名　監事：3名
4．出席者：理事17名　監事3名

6．　事業報告

（1）公益目的事業

事業区分にある公益目的事業公1，公2，公3にある事業を組織運営上，委員会に割り振り運営を行った.

公1は，学術事業，交流事業であり担当委員会は，以下の通りである.
・学術委員会
・国際交流委員会
・関連領域検討委員会

公2は，教育事業，安全事業であり担当委員会は以下の通りである.
・教育委員会
・安全委員会
・救急心肺蘇生検討委員会

公3は，公益事業であり担当委員会は以下の通りである.
・広報委員会
・麻酔博物館事業検討委員会

（2）収益事業

収1は，医師賠償責任保険の加入仲介事業を実施した.
収2は，学術集会開催時に附設展示会を実施した.

（３）管理運営部門

管理運営部門として以下の組織を置き，運営を行った.

・総務委員会
・財務委員会
・倫理委員会
・事務局

各委員会の委員長は理事とし，統括として常務理事をおいて運営を行った．以下に各委員会の事業報告の概要を記す.

（１）公益目的事業

＜公１：学術・交流事業＞

１）学術委員会（委員長・担当常務理事：山田理事）

【業務内容】

学術委員会は学術事業を担当する.「国内外の先進的研究を奨励・推進・支援し，あわせて国内外の関連学術団体をはじめ関係方面と連携し，新しい技術と正しい知識の普及・啓発を図り，その成果を社会（国民）へ還元する」ことを事業目的とし，中期および短期計画を立案し，その実行にあたる．学術事業戦略は，大きく A.学術集会運営，B.機関誌，準機関誌の発行，C. 研究の奨励・推進・支援に分けられる.

【2014 年度報告】

2014年度は，年次・支部学術集会に関する事項の検討，2015年度学会賞の応募・審査，JA Clinical Reports創刊に関する検討，日本麻酔科学会主導の臨床研究についての検討等を行った.

★　委員会回数3回（7月7日,11月17日,2月13日）

・学術集会運営

①第61回学術集会

日　程：2014年5月15日（木）～17日（土）
場　所：パシフィコ横浜
会　長：山田　芳嗣
参加者：8928名
テーマ：「Anesthesiology - Impact at Present and Potential for the Future」
※会長企画・講演やシンポジウム＝2題，招待講演＝8題，招請講演＝15題，シンポジウム＝21題，PBLD＝5題，ワークショップ＝1 題，委員会企画＝9題.

一般演題は1098題の応募があり，学術集会企画専門部会で採否検討をした結果，採択演題数は847題，不採択は245題，採択率77.1%となった．領域毎で優秀演題等のセッッションを実施し，採択演題の内訳は優秀演題が85題，ポスターディスカッション276題，ポスター486題であった.

②支部の学術集会（各支部で合計6回）

北海道・東北支部第4回学術集会（会長：山蔭　道明）
2014年9月13日（土）　於：札幌プリンスホテル
関東甲信越・東京支部第54回合同学術集会（会長：寺嶋　克幸）
2014年8月30日（土）　於：京王プラザホテル
東海・北陸支部第12回学術集会（会長：土田　英昭）
2014年9月13日（土）　於：金沢市文化ホール
第60回関西支部学術集会（会長：南　敏明）
2014年9月6日（土）　於：大阪国際交流センター
中国・四国支部第51回学術集会（会長：松本　美志也）
2014年9月13日（土）　於：海峡メッセ下関
九州麻酔科学会第52回大会（会長：佐多　竹良）
2014年9月6日（土）　於：北九州国際会議場

・機関誌・準機関誌等の発行・頒布，査読編集

①機関誌

「Journal of Anesthesia」誌を隔月刊で6号（Vol.28-No.2～Vol.29-No.1），約12300部発刊し，会員，官公庁，研究者，国内外の関連する学術団体等に頒布した．同誌はインターネットを媒体として情報を閲覧できるオンラインシステムを構築しており，このシステム上では，より最新の

論文を閲覧できる環境を整えている．なお，会員は無料で閲覧可能である．

②準機関誌
「麻酔」誌を月間で12号（Vol.63-No.4～Vol.64-No.3）発行した．

③学術集会プログラム
公益社団法人日本麻酔科学会第61回学術集会プログラムを発行した．抄録に関しては，会員専用ホームページへ掲載し，プログラム・抄録の閲覧可能な携帯情報端末用アプリを開設した．

・学術研究の奨励，支援
①学術研究の奨励
臨床研究を支援・推進するための検討部会を設置し，学会支援型臨床研究の募集を行うことを決定した．

②学術論文雑誌，医療関連雑誌，映像等の収集・集約化
国内外の麻酔科関連分野の学術論文，医療関連の雑誌・映像等を麻酔博物館で収集・集約し，医学・医療について正しく理解できる場を，会員はもとより一般市民やマスメディアに提供した．

③研究業績等の表彰
年次学術集会及び支部学術集会でも最優秀となる演題の選考を行った．また，2014年度学会賞5賞のうち3賞（山村記念賞・若手奨励賞・社会賞（該当者なし）松木賞・青洲賞（該当者なし））の表彰及び記念講演を行い，2015年度学会賞5賞の募集，受賞者の選考を行った．2015年度学会賞5賞について，応募のあった4賞（山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞）の選考を行い，受賞予定者を以下のとおり決定した．

Ⅰ．山村記念賞　該当なし

Ⅱ．青洲賞
佐倉　伸一（島根大学医学部附属病院手術部）
超音波ガイド下末梢神経ブロックにおける有効性と安全性向上のためのブロック針先端および薬液注入部位に関する研究：臀下部アプローチ坐骨神経ブロックについて

Ⅲ．若手奨励賞
（基　礎）
澤田　敦史（札幌医科大学医学部麻酔科学講座）
Supression of bone marrow-derived microglia in the amygdala improves anxiety-like behavior induced by chronic partial sciatic nerve ligation in mice

石田　公美子（信州大学医学部麻酔蘇生学講座）
Calcitonin gene-related peptide is involved in inflammatory pain but not in postoperative pain

（臨　床）
吉田　敬之（新潟大学医歯学総合病院手術部）
Effects of ropivacaine concentration on the spread of sensory block produced by continuous thoracic paravertebral block: a prospective,randomised controlled,double-blind study

Ⅳ．社会賞　該当なし

Ⅴ．松木賞　応募なし

２）国際交流委員会（委員長：横山理事，担当常務理事：工藤理事）

【業務内容】
国際交流委員会は「国際的医療連携への貢献」に関連する交流事業戦略の国際交流部門を担当し，その中期および短期計画を立案，実行にあたる．

【2014 年度報告】
2014 年度は,第 2 回東アジア麻酔科学会講師派遣,第 2 回東アジア麻酔科学会 GeneralAssembly 出席，海外留学生受入事業の実施および次年度計画，2015 年度 Pacific Refresher Course への講師派遣公募，第 61 回学術集会での国際交流委員会企画「外から見た日本、内から見た日本：外国人および受入れ施設からの報告」実施，第 62 回学術集会開催時の国際交流委員会企画検討，Americcan Society of Anesthesiologists および European Society of Anaesthesiology 開催会議へ委員派遣等を行った.

★ 委員会回数 3 回（5 月 16 日，7 月 4 日，11 月 20 日）

・WFSA（世界麻酔学会連合）
理事および各種委員会委員を派遣した.

・WFSA アジア・オーストラレーシア支部（AARS）
Treasurer として，本学会会員である大嶽浩司氏を派遣した.

・海外留学生受け入れ
海外からの留学生受入事業を実施，以下の 6 名の受け入れ研修を行い，各留学生の受け入れ施設を募集した.

氏名	国名	受入施設	受入れ期間
Yu Mar Win	Myanmar	東京女子医大病院	2014 年 5 月 14 日～7 月 16 日
Suu Nwe Khin	Myanmar	北海道大学病院	2014 年 5 月 14 日～8 月 1 日
Krishna Pokharel	Nepal	神戸大学医学部附属病院	2014 年 6 月 1 日～7 月 31 日
Binh Tat Nguyen	Vietnam	埼玉県立小児医療センター	2014 年 7 月 1 日～9 月 26 日
Yoshua Baktiar	Indonesia	名古屋大学医学部附属病院	2014 年 7 月 8 日～9 月 19 日
Asish Subedi	Nepal	愛知医科大学病院	2015 年 3 月 2 日～5 月 2 日

３）関連領域検討委員会(委員長・担当常務理事：工藤理事)

【業務内容】
関連領域検討委員会は，「他領域と協働する医療」に関連する交流事業戦略の関連領域部門を担当し，その中期および短期計画を立案，実行にあたる．活動範囲は，集中治療，疼痛治療，緩和医療など麻酔科関連領域部門との関わりについての検討である.

【2014 年度報告】
2014 年度は，第 61 回学術集会関連領域検討委員会企画「麻酔科専門医を踏まえた次のステップ(集中治療分野)・麻酔科医のペインクリニック、緩和医療への関わりと専門医制度」を実施，関連領域における現状調査アンケート実施，第 62 回学術集会関連領域検討委員会企画企画検討を行った.

★ 委員会回数 1 回（5 月 16 日）

＜公２：教育・安全事業＞

１）教育委員会（委員長・担当常務理事：上村理事）

【業務内容】
教育委員会は教育事業を担当する．学会理念の１項に掲げる「質の高い麻酔科医の育成」のため，認定医・専門医・指導制度および認定病院など教育機関の充実を図る．専門医，指導医および認定施設の認定および更新の審査は明確な基準を設けてこれを行う．高度な知識，判断力，技術を向上，維持するための研修や自己学習の機会を提供する環境を整備する.

【2014 年度報告】
2014 年度は，各種資格の認定審査，新認定制度の検討,2014 年度・2015 年度リフレッシャーコースの検討，教育ガイドラインの改訂,日本専門医機構専門医新規・更新基準の検討，認定審査委員会関連審議等行った.

★ 委員会回数 3 回（7 月 17 日,11 月 20 日，2 月 25 日）

・教育プログラム等の策定
麻酔科医の生涯教育としての段階的目標を掲げ，その達成のための再教育プログラムの提供を行い，それによって均質な医療水準の維持と普及をはかる． 2015 年度に新たな専門医制度を施行するために，2014 年度は，麻酔科専門医研修プログラムの認定審査を行い,運用細部の検討を

行った．また,今後，専門医制度が日本専門医機構に移管することから,日本専門医機構認定専門医の認定基準について検討を行った.

・麻酔業務に関わる医師，医師以外，ならびに施設の審査・認定
所定の内規に則り下記資格ならびに施設を認定した.

①認定医等の新規認定，資格試験の実施
2014 年度は，2014 年 4 月・8 月・12 月の計 3 回認定審査を行い，2014 年度新規認定医審査合格者数は 411 名となった.

第 1 回申請者：214 名　　合格者：213 名（2014 年 4 月 1 日認定）
第 2 回申請者： 82 名　　合格者： 82 名（2014 年 8 月 1 日認定）
第 3 回申請者：104 名　　合格者：104 名（2014 年 12 月 1 日認定）

認定医再認定審査は上記新規認定医審査と同時に行い，合格者は 12 名となった.

第 1 回申請者： 4 名　　合格者： 4 名（2014 年 4 月 1 日認定）
第 2 回申請者： 8 名　　合格者： 8 名（2014 年 8 月 1 日認定）
第 3 回申請者： 0 名　　合格者： 0 名（2014 年 12 月 1 日認定）

②新規専門医
2014 年 9 月 28 日・10 月 3 日・4 日・5 日,第 53 回麻酔科専門医認定試験が実施された.

9 月 28 日：筆記試験（会場：ベルサール汐留・神戸国際展示場）
10 月 3 日・4 日・5 日：口頭試験・実技試験（会場：神戸ポートピアホテル）
受験者総数：618 名
新規認定専門医（3 科目合格者）数：516 名
筆記受験者数：545 名　合格者：487 名　合格率： 89.4%
口頭受験者数：573 名　合格者：510 名　合格率： 89.0%
実技受験者数：521 名　合格者：508 名　合格率： 97.5%

③新規指導医
2014 年 11 月 26 日，2014 年度麻酔科指導医新規認定の審査会が開催された．麻酔科指導医新規認定者は 120 名となった.

④新規認定病院
2014 年度は，3 回認定審査を行い，2014 年度新規認定病院数は 74 施設となった.

第 1 回申請施設：27 施設　　合格施設：27 施設　（2014 年 4 月 1 日認定）
第 2 回申請施設：30 施設　　合格施設：30 施設（2014 年 8 月 1 日認定）
第 3 回申請施設：17 施設　　合格施設：17 施設（2014 年 12 月 1 日認定）

⑤認定医等の資格更新審査
2015 年 1 月 20 日，2014 年度麻酔科指導医更新者の審査会が開催され，麻酔科指導医更新者は 1561 名（2015 年 3 月 31 日時点）となった．2015 年 2 月 5 日，2014 年度麻酔科専門医更新者の審査会が開催され，麻酔科専門医更新者は 603 名(2015 年 3 月 31 日時点)となった．また 2015 年 2 月 16 日麻酔科認定医更新申請者の審査会が開催され，認定医更新者は 210 名(2015 年 3 月 31 日時点)となった.

指導医更新者：1561 名　　暫定指導医認定：17 名
専門医更新者：603 名　　暫定専門医認定：9 名
認定医更新者：210 名　　暫定認定医認定：6 名

⑥認定病院更新
麻酔科認定病院更新申請施設　187 施設（内,176 施設の認定）

⑦麻酔科専門医研修プログラム
麻酔科専門医研修プログラム：申請数 174 プログラム　　合格施設：174 プログラム

⑧周術期管理チーム認定資格新規審査
2014 年度より麻酔科医と共に周術期業務に従事する多職種（看護師，薬剤師，臨床工学技士（非会員））について，実務経験，所定の教育効果を測る目的で周術期管理チーム認定制度を開始，検討を行った．2014 年度については看護師を対象に 5 月 15 日～6 月末日に認定申請受付，7 月～

9 月に書類審査，11 月 22 日に筆記試験を行い，以下の通り認定をした．

新規申請者数　：196 名
書類審査合格者：185 名
筆記受験者数　：182 名
合格者数　　：175 名　（2015 年 4 月 1 日認定）
筆記試験開催概要
日　程：2014 年 11 月 22 日
会　場：有明 TOC（東京会場），神戸ポートピアホテル(神戸会場)

・生涯教育・研修

質の高い麻酔科医の育成のため，周術期管理，救急，集中治療，ペインクリニック，緩和医療等，危機管理，最新のトピックスについての新しい知識の定着を目的とした教育講座を開催している．現在までに計 13 回の開催実績があり，受講者は 1 回につき 1000 名を超えている．従来は麻酔科専門医試験受験者を対象とした内容であったが，2011 年度からは麻酔科専門医取得済みの麻酔科医も対象とし，開催コース数を拡大している．2014 年度は計 42 コース開催した．

・教育普及

麻酔科関連医療が十分普及していない諸外国において，教育講座等を開催し，周術期（手術前・中・後）の麻酔科業務について協働する医療従事者の教育を行い，その成果を当該国の社会に還元している．

チーム医療推進のために看護師，薬剤師，臨床工学技士を対象としたセミナーを年次学術集会，支部学術集会（6 支部）と併催する形で開催した．2014 年度は周術期管理チームの一員である看護師を対象に認定制度を開始し，認定資格試験の解説本の作成，周術期管理チームテキスト第 3 版発行に向けての検討，周術期管理チームの実態調査について検討した．さらに，2016 年度認定に向けてチーム薬剤師認定の検討，日本病院薬剤師会との意思確認を行った．

また，蘇生教育として心肺蘇生法を個人・団体に提供できるよう医師，医療従事者の教育と指導者の養成を行い，関西支部においては主として若手医師を対象とした症例検討会を年 3 回開催した．

2）安全委員会（委員長：白石理事，担当常務理事：西脇理事）

【業務内容】

安全委員会は，麻酔および周術期医療に必要なリスクマネジメントに関する事項について検討する安全事業戦略を担当する．安全な麻酔の施行に必要な調査および情報収集を行い，さらに質の高い安全な麻酔のためのガイドライン作成やマニュアルの策定を主導する．安全事業戦略は，大きく４つの部門，統計調査・情報収集部門，麻酔関連機器部門，薬剤および麻酔手技部門，リスクマネジメント部門に分けられる．

【2014 年度報告】

2014 年度は，各種ガイドライン，指針の改訂･作成･検討，各種調査の実施，麻酔機器不具合･薬剤情報対応についての検討，委員派遣の検討，その他審議事項についての検討，団体医師賠償責任保険案内の送付等行った．

★　委員会回数 4 回（5 月 16 日，7 月 25 日，11 月 3 日，2 月 11 日）

・麻酔科関連医療の安全性の担保

医療事故再発防止のため，麻酔科関連分野に関わる事故が発生した際，速やかに検証を行い，適宜，対応について検討している．麻酔関連医療機器及び器具の故障情報について，会員および企業から得た情報に関し，企業にヒアリングを行い，使用上の注意喚起を会員向けニューズレター及びホームページに掲載した．搬送時に使用する小型酸素ボンベと二酸化炭素ボンベの誤認事故防止対策については，日本医療ガス学会，　日本産業・医療ガス協会と合同で，事故防止に関する第 2 回提言を作成した．また，誤薬防止のためのシリンジラベル薬効別色分けに関する提言を作成した．

・各種調査の実施

①麻酔関連偶発症例調査

偶発症例調査 2014（2014.1.1～2014.12.31）：麻酔科認定病院 1321 施設を対象に行った．調査結果は 2015 年に解析を行い，公表予定である．

②麻酔関連機器故障情報調査
麻酔関連機器で故障が発生した場合，あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け，ホームページを通じて常に情報を収集し，即時にフィードバックした.

③Closed Claims Project の推進と研究
団体契約を結んでいる保険会社から得たデータを分析し，予防策を普及した．普及策として，2014 年度版の『医療紛争ゼロを目指して』という冊子を作成し，配布した.

④周術期肺血栓塞栓症発症例調査
わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況，予防法，治療法等に関して現状を把握するために，日本麻酔科学会認定病院 1321 施設において，2014 年の周術期肺血性塞栓症に関するアンケート調査を行なった.

⑤JSAPIMS 使用状況調査
わが国における麻酔台帳（JSAPIMS）の使用状況に関して現状を把握するために，日本麻酔科学会認定病院 1321 施設において，アンケート調査を行なった.

⑥術前の絶飲食ガイドライン使用状況調査
わが国における術前の絶飲食ガイドラインの使用状況に関して現状を把握するために，日本麻酔科学会認定病院 1321 施設において，アンケート調査を行なった.

⑦WHO 手術安全チェックリスト使用状況調査
わが国におけるの WHO 手術安全チェックリストの使用状況に関して現状を把握するために，日本麻酔科学会認定病院 1321 施設において，アンケート調査を行なった.

・リスクマネジメント
①感染対策
本学会年次学術集会で感染対策，手術安全に関するシンポジウムを実施した．次年度も継続し，実績を重ね ICD 制度協議会への加盟を目指す.

・各種ガイドライン，指針の改訂･作成･検討
麻酔薬及び麻酔関連薬ガイドライン第 3 版，麻酔器始業点検，安全な麻酔のためのモニター指針の改訂を行った．また，新たに周術期禁煙ガイドラインを完成し公開した． WHO 手術安全チェックリストの日本語訳を作成し，WHO に確認を行った.

・麻酔科医の適正配置（マンパワー適正化事業）
一般市民が等しく質の高い医療をうけられるように麻酔科医の適正配置に努めた．2014 年度は 2013 年度に実施したアンケートを集計・解析し，麻酔科医の現状を調査報告書としてまとめ，学会 HP に公開した．また，学会として必要なデータ項目，収集方法について検討を行なった.

３）救急心肺蘇生法検討委員会（委員長：有村理事，担当常務理事：工藤理事）

【業務内容】
救急心肺蘇生法委員会は麻酔科の関連領域分野として，教育の充実をはかり，学術的には，ILCOR（イルコア） JRC(国際蘇生連絡協議会)との交流を通して，日本の蘇生学の発展に寄与する.

【2014 年度報告】
2014 年度は，ECC 講習会支部担当責任者部会での日本麻酔科学会及び地域トレーニングサイトでの開催状況の確認，専門医新規申請 ACLS 必須化後の検証アンケート実施の検討，救急救命士の気管挿管実習に関するアンケート調査等行った.

★ 委員会開催実績なし

＜公３：公益事業＞

１）広報委員会（委員長：坂本理事，担当常務理事：上村理事）

【業務内容】
広報委員会は公益社団法人としての本学会の目的を念頭に置き，本学会の活動を広く社会及び本学会会員に広報する普及啓発事業戦略を担当する．本学会の社会的活動の推進を図ることを目的に中期及び短期計画を立案し，その実行に当たる．活動の対象は一般社会，各種マスコミ，会員，臨床研修医，医学生，及び関係各省庁に分けられる．
【2014 年度報告】
2014 年度は，BSTV 番組の作成，後期研修医向けパンフレットの作成，一般市民向け HP 新規開設，新聞広告を用いた普及啓発，第 62 回学術集会医学生･臨床研修医（初期）招待企画の実施，一般の方･メディアからの問い合わせ対応，ニューズレターの企画・校正・発刊，手術を受ける方のための麻酔に関する説明冊子「麻酔のしおり」30 万部印刷 317,102 万部販売等を行った．
★　委員会回数 7 回（4 月 13 日，6 月 8 日，7 月 13 日，9 月 14 日，10 月 19 日，11 月 9 日，2 月 22 日）

・医療全般，医療事故等の相談窓口（医療に関する相談）
一般市民からの麻酔科関連医療に関する質問を電子メール，文書等で受け付け回答した．

・メディア戦略の検討・実施（メディア戦略）
取材協力，ニュースリリースの配布などを積極的に実施し，BSTV 番組「明日への目覚め」の作成，後期研修医向けパンフレット「麻酔科医以外の医師は、なぜ、子供に麻酔科をすすめるのか?」の作成，一般市民向け HP「麻酔科医ってどうなの」新規開設を行い，マスメディアを通じて広く社会に麻酔科関連医療を正しく理解してもらうための活動を行った．

・会員・市民への出版物発行（出版物発行）
一般市民向けにわかりやすく麻酔について解説した「麻酔のしおり」を作成し，2013 年 8 月に内容を改訂し，全国の医療施設に 317,102 部(2015 年 3 月 31 日時点)販売した．

・市民へのセミナー，シンポジウム等の開催（啓発）
一般市民向けの教育講座を開催し，麻酔科関連医療について正しい知識と認識を普及させる．今日の麻酔関連医療が確立されるまでの歴史的展示物を公開している麻酔博物館への来館者に現在の麻酔および麻酔の歴史を解説した．2014 年度は 735 名(2015 年 3 月 31 日時点)が来館した．

・公益社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを 4 号（Vol.22-No.2～Vol.23-No.1）発行した．
関西支部：近畿麻酔科医界第 62 号（8 月），第 63 号(2 月)を発行
九州支部：年報 38 号を発行

２）麻酔博物館事業検討委員会（委員長：木内理事　担当常務理事：上村理事）
【業務内容】
麻酔博物館は，主に一般社会，会員を対象とした普及啓発事業を担当する．麻酔科学発展の足跡となる資料の収集・保存と，展示による啓発を目的に中期および短期計画を立案し，その実行に当たる．活動の内容は，資料収集・整理・保存，企画運営，広報・交流活動，機器史料展示に分けられる．
【2014 年度報告】
2014 年度は，麻酔科学史国際シンポジウム(ISHA2021)の開催誘致についての検討，第 62 回学術集会麻酔博物館特別展示についての検討，名誉会員へのインタビュー動画撮影，所蔵書籍の整理と検討，書籍・機器寄贈受け入れの実施，所蔵データ登録等行った．
★委員会回数 2 回（8 月 9 日，3 月 1 日）

・今日の医療が確立されるまでの歴史的展示物を公開，最新機器を展示・収蔵．2014 年度は 735 名(2015 年 3 月 31 日時点)の来館者があった．

（２）収益事業
＜収１＞
医師賠償責任保険の団体加入契約を，損害保険ジャパン日本興亜株式会社，三井住友海上保険株式会社，東京海上日動火災保険株式会社と締結し，その仲介事務事業を行った．

＜収２＞

第 61 回学術集会（2014 年 5 月 15 日～17 日）開催，9 月の第 1 週～第 2 週に各支部学術集会開催時に，医療機器，医薬品，検査機器，医療情報示説，書籍等を対象として出展を実施し，本学会は展示小間を提供した．

（３）その他（管理運営部門）

１）総務委員会（委員長・担当常務理事：齋藤理事）

【業務内容】

学会理念達成のため，麻酔科診療発展・医療貢献事業戦略，社会保険における麻酔科診療の評価の見直しおよび麻酔科医の労働環境の改善・整備に関する事業戦略を担当し，学会組織に係わる事項，すなわち組織運営に関する事項，会則検討に関する事項を担当する．

【2014 年度報告】

2014 年度は，麻酔科医適正配置部会では麻酔科医のマンパワーに関する調査，会則検討部会では会則の検討，社会保険部会では平成 28 年度診療報酬改定要望への取り組みを主として活動した．男女共同参画における代議員選任および理事候補者選定規則変更についての検討，看護師による特定行為分類案についての検討・ヒアリング，2015 年度名誉会員候補者の審査などを実施した．

★　委員会開催回数 3 回（7 月 28 日，9 月 18 日，2 月 10 日）

２）財務委員会（委員長：西脇理事）

【業務内容】

学会理念達成のための事業計画遂行には，学会の財務基盤の長期的安定が必須である．財務委員会は適切な事業計画作成を可能とするために，過去の予算案，決算書，財務管理の実績と現状分析，および将来的予測から，正確な資金計画をたてる．学会の円滑な業務執行を可能にするために，健全な財務状況を維持するような計画を立案する．

【2014 年度報告】

2014 年度は，2013 年度決算ならびに 2014 年度予算についての検討，2014 年度各月月締め決算検討，2014 年度上半期決算についての検討，2014 年度暫定決算についての検討，2015 年度予算についての検討を主に行った．その他に，第 61 回学術集会暫定決算についての検討，中期・長期財務計画についての検討，シミュレーションセンター構築時のモデル収支予算についての検討，支部学術集会予算についての検討などを実施した．

★　委員会開催回数 6 回（4 月 16 日，9 月 24 日，10 月 22 日，11 月 21 日，1 月 21 日，3 月 25 日）

３）倫理委員会（委員長：鈴木利保理事，担当常務理事：齋藤繁理事）

【業務内容】

倫理委員会は，学会理念に基づく事業を遂行する上で問題となる倫理的事項について検討する．学会や会員に関わる倫理的問題が生じた場合，その処分を含む対応について検討する．

【2014 年度報告】

学会が実施する調査および研究について，立案した各委員会からの申請に基づき，倫理的問題の有無について審査した．2014 年度は，アンケートの倫理審査申請書 11 件（手術室の誤薬・誤薬投与防止対策現状調査アンケート，医療用二酸化炭素ボンベの使用状況に関するアンケート，術前絶飲食の実態調査，第13回リフレッシャーコースアンケート，JSAPIMS使用状況に関するアンケート，WHO 手術安全チェックリストアンケート，ACLS 講習受講アンケート，関連領域における現状調査アンケート，救急救命士の気管挿管実習に関するアンケート調査，麻酔・医療材料アンケート，偶発症例調査）の審査，対応を行った．また，偶発症例(肺塞栓)調査実施前際し施設の倫理委員会審査を行うよう通知した他，倫理規約改訂の検討を行った．

★　委員会回数 1 回（8 月 4 日）

・調査特別委員会の設置

学会の名誉および社会的信用に影響を及ぼすおそれがある行為をなしたと疑いのある会員の行為 4 件について，それぞれ調査特別委員会を設置し，その事実の有無，内容，程度，状況等を調査した．

４）事務局（事務局長：工藤理事）

定款に本学会の事務を処理するために事務局を設置する，と規定されるとともに，事務局長は理事の中から理事会が選任すること，事務長及び所要の職員を置くこと，と規定されている．

【2014 年度報告】

2014 年度は，2013 年度事業報告についての検討，短期・中期・長期事業計画の検討，2015 年度事業計画についての検討を行った．他に職員採用計画についての検討，職員採用面接，上半期事業報告についての確認，内閣府立入り検査，及び上半期業務監査結果についての報告，事務局職員の新役職追加についての検討，理事候補者選出細則における集計時の票に関する変更についての検討，職員就業規則変更についての検討などを実施した．

★　会議開催回数 5 回（7 月 4 日，8 月 22 日，9 月 16 日，10 月 31 日，3 月 2 日）

５）その他

・登録・派遣

日本学術会議，日本医師会，日本医学会，厚生労働省医道審議会標榜医審査会，日本専門医機構，大学評価・学位授与機構，外科系医学会社会保険委員会連合，外科関連学会協議会，日本救急医療財団，日本蘇生協議会，3 学会合同呼吸療法士認定委員会，医療機能評価機構，日本骨髄バンク，日本臓器移植ネットワーク，全国 MC 協議会，全国医療安全共同行動，日本歯科麻酔学会，禁煙学術ネットワーク，WFSA，AARS 等に委員を派遣し，各々の目的と事業に合わせ連携・協力した．

・各種学術集会協賛・後援

関連協力団体の学術集会および講習会，市民公開講座等を協賛・後援を行った．

７．　2014 年度委員会委員等一覧

＜事　務　局＞

事 務 局 長：工　藤　一　大
副事務局長：上　山　博　史
事　務　局：足　立　健　彦　　多　田　恵　一　　増　田　純　一
神戸事務局
東京事務所

＜常　置　委　員　会＞

【総　務　委　員　会】担当常務理事：齋　藤　　繁
委　員　長：齋　藤　　繁
副 委 員 長：有　村　敏　明
副 委 員 長：尾　﨑　　眞
委　　員：落　合　亮　一　　中　塚　秀　輝

［社会保険部会］

部　会　長：落　合　亮　一
部　会　員：有　村　敏　明　　岩　瀬　良　範　　寺　嶋　克　幸　　森　崎　　浩
横　田　美　幸

［会則検討部会］

部　会　長：齋　藤　　繁
部　会　員：河　本　昌　志　　鎮　西　美栄子　　前　原　康　宏

［麻酔科医適正配置部会］

部　会　長：中　塚　秀　輝
部　会　員：稲　垣　喜　三　　加　藤　啓　一　　川　股　知　之　　櫛　方　哲　也
松　本　美志也

【財　務　委　員　会】担当常務理事：西　脇　公　俊
委　員　長：西　脇　公　俊

副委員長：足立健彦
委員：稲田英一　森崎浩

【学術委員会】担当常務理事：山田芳嗣
委員長：山田芳嗣
副委員長：廣田和美
委員：浅井隆　垣花学　川真田樹人　高雄由美子
福田和彦　槇田浩史
オブザーバー：齊藤洋司

［機関誌専門部会］
部会長：廣田和美
部会員：磯野史朗　市瀬史　上村裕一　齋藤繁
竹田晋浩　照井克生　土田英昭　橋本悟

［Journal of Anesthesia Editorial Board］
Editor-in-Chief：廣田和美
Section Editor：浅井隆　井上荘一郎　江木盛時　小田裕
垣花学　川口昌彦　蔵谷紀文　齋藤繁
角倉弘行　山蔭道明　山本達郎

［Journal of Anesthesia Clinical Reports Editorial Board］
Editor-in-Chief：廣田和美
Section Editor：浅井隆　磯野史朗　井上荘一郎　江木盛時
小田裕　垣花学　川口昌彦　上村裕一
齋藤繁　角倉弘行　照井克生　土田英昭
橋本悟　山本達郎　山蔭道明

［学術集会実行委員会］　担当常務理事：山田芳嗣
委員長：福田和彦
副委員長：外須美夫
副委員長：土田英昭
委員：浅井隆　上園晶一　川真田樹人　上村裕一
金信秀　佐和貞治　中尾慎一　中塚秀輝
森松博史
オブザーバー：足立健彦

◆会長１名・副会長２名
会長：山田芳嗣
副会長：福田和彦
副会長：外須美夫

◆ 循環ワーキングループ
ＷＧ長：金信秀
メンバー：石田和慶　岡本浩嗣　国沢卓之　畠山登
林行雄

◆ 呼吸ワーキンググループ
ＷＧ長：浅井隆
メンバー：磯野史朗　内田寛治　木山秀哉　竹内宗之
花崎元彦

◆ 神経ワーキンググループ

W　G　長：中　尾　慎　一
メンバー：飯　田　宏　樹　　牛　島　一　男　　松　本　美志也　　森　　隆

◆ 小児・産科ワーキンググループ
W　G　長：上　園　晶　一
メンバー：鈴　木　康　之　　照　井　克　生　　松　田　祐　典　　水　口　亜　紀
　　山　本　信　一

◆ ペイン緩和・局所麻酔ワーキンググループ
W　G　長：川真田　樹　人
メンバー：住　谷　昌　彦　　下　山　直　人　　長谷川　麻衣子　　廣　瀬　宗　孝
　　藤　原　祥　裕　　溝　渕　知　司　　山　本　達　郎

◆ 救急・ICU ワーキンググループ
W　G　長：森　松　博　史
メンバー：貝　沼　関　志　　垣　花　泰　之　　川　前　金　幸　　祖父江　和　哉
　　藤　野　裕　士

◆ 麻酔科関連ワーキンググループ
W　G　長：中　塚　秀　輝
メンバー：坂　口　嘉　郎　　白　神　豪太郎　　鈴　木　孝　浩　　田　中　　誠
　　中　尾　正　和　　長　田　　理　　多田羅　恒　雄

◆ 麻酔全般ワーキンググループ
W　G　長：佐　和　貞　治
メンバー：川　口　昌　彦　　鈴　木　健　二　　西　川　精　宣　　西　脇　公　俊
　　山　蔭　道　明

◆「麻酔」編集委員
浅　井　　隆　　稲　田　英　一

【教　育　委　員　会】担当常務理事：上　村　裕　一
委　員　長：上　村　裕　一
副 委 員 長：中　尾　慎　一
委　　員：内　野　博　之　　大　江　容　子　　北　口　勝　康　　白　神　豪太郎
　　鈴　木　康　之　　益　田　律　子
オブザーバー：村　川　雅　洋

［認定制度抜本的見直し専門部会］
部　会　長：村　川　雅　洋
部　会　員：足　立　健　彦　　大　江　容　子　　上　村　裕　一　　鈴　木　利　保
　　鈴　木　康　之　　寺　嶋　克　幸　　槇　田　浩　史　　森　本　裕　二
オブザーバー：稲　田　英　一

◆ 産科麻酔検討ワーキンググループ
W　G　長：奥　富　俊　之
メンバー：加　藤　里　絵　　角　倉　弘　行　　照　井　克　生

◆ 小児麻酔検討ワーキンググループ
W　G　長：木　内　恵　子
メンバー：大　畑　　淳　　香　川　哲　郎　　鈴　木　康　之

◆ 心臓麻酔検討ワーキンググループ
W　G　長：野　村　　実
メンバー：小　出　康　弘　　竹　内　　護　　山　田　達　也

［認定審査委員会］
委　員　長：上　村　裕　一
副 委 員 長：内　野　博　之　　大　嶽　浩　司　　北　口　勝　康　　中　尾　慎　一

［第 1 部会（専門医認定）］
部　会　長：中　尾　慎　一
（専門医認定）木　内　恵　子　　小板橋　俊　哉　　重　見　研　司　　山　口　重　樹
（筆 記 試 験）岡　本　浩　嗣　　大　嶽　浩　司　　大　塚　将　秀　　川　口　昌　彦
佐　和　貞　治　　澤　村　成　史　　鈴　木　孝　浩　　祖父江　和　哉
橋　口　さおり　　松　本　美志也　　間　宮　敬　子　　森　松　博　史
萬　　知　子
オブザーバー：白　神　豪太郎

（口 頭 試 験）山　口　重　樹　　内　野　博　之　　小　澤　章　子　　木　山　秀　哉
佐　藤　暢　一　　鈴　木　康　之　　中　澤　弘　一
オブザーバー：小板橋　俊　哉
（実 技 試 験）西　川　精　宣　　合谷木　　徹　　恒　吉　勇　男　　濱　田　　宏
廣　瀬　宗　孝　　水　本　一　弘
オブザーバー：中　尾　慎　一

◆　試験問題データベース検討ワーキンググループ
W　G　長：重　見　研　司
メ ン バ ー：津　崎　晃　一　　長　田　　理　　萩　平　　哲

◆　専門医研修プログラム検討ワーキンググループ
W　G　長：大　嶽　浩　司
メ ン バ ー：鈴　木　利　保　　寺　嶋　克　幸　　槇　田　浩　史
オブザーバー：稲　田　英　一
（当日試験官）足　立　健　彦　　伊　吹　京　秀　　上　山　博　史　　牛　島　一　男
内　野　博　之　　枝　長　充　隆　　大　嶽　浩　司　　大　塚　将　秀
岡　本　浩　嗣　　小　澤　章　子　　小　幡　英　章　　甲　斐　哲　也
紙　谷　義　孝　　川　口　昌　彦　　川　崎　貴　士　　川　前　金　幸
川　股　知　之　　川真田　樹　人　　北　川　裕　利　　北　口　勝　康
木　山　秀　哉　　櫛　方　哲　也　　桑　迫　勇　登　　小板橋　俊　哉
合谷木　　徹　　小　森　万希子　　坂　口　嘉　郎　　佐　藤　健　治
佐　藤　暢　一　　佐　和　貞　治　　澤　村　成　史　　白　神　豪太郎
杉　田　道　子　　鈴　木　孝　浩　　鈴　木　康　之　　瀬　川　　一
祖父江　和　哉　　高　雄　由美子　　高　倉　　康　　田　中　克　哉
田　中　　誠　　田　中　源　重　　津　崎　晃　一　　恒　吉　勇　男
土　井　克　史　　中　島　芳　樹　　中　塚　秀　輝　　西　村　欣　也
西　脇　公　俊　　丹　羽　康　則　　橋　口　さおり　　濱　田　　宏
原　　哲　也　　尾　頭　希代子　　廣　瀬　宗　孝　　藤　野　裕　士
坊　垣　昌　彦　　松　永　　明　　松　本　美志也　　間　宮　敬　子
水　本　一　弘　　溝　渕　知　司　　南　　ゆかり　　宮　部　雅　幸
村　川　雅　洋　　森　松　博　史　　山　浦　　健　　山　口　重　樹
萬　　知　子　　萬　家　俊　博

［第 2 部会（指導医認定）］
部　会　長：内　野　博　之
部　会　員：飯　田　宏　樹　　寺　嶋　克　幸　　益　田　律　子

［第 3 部会（認定医, 認定施設認定］
部　会　長：北　口　勝　康
部　会　員：小　川　幸　志　　鈴　木　康　之　　横　山　順一郎

［第 4 部会（研修プログラム認定］

部　会　長：大　嶽　浩　司
部　会　員：香　取　信　之　　鈴　木　健　二　　藤　野　裕　士　　森　松　博　史

【倫　理　委　員　会】担当常務理事：齋　藤　　繁
委　員　長：鈴　木　利　保
副 委 員 長：鈴　木　健　二
委　　員：世良田　和　幸　　祖父江　和　哉　　野　坂　修　一

【安　全　委　員　会】担当常務理事：西　脇　公　俊
委　員　長：白　石　義　人
副 委 員 長：須加原　一　博
委　　員：市　川　高　夫　　河　本　昌　志　　竹　内　　護　　森　松　博　史

［偶発症例（肺塞栓）専門部会］
部　会　長：森　松　博　史
部　会　員：入　田　和　男　　黒　岩　政　之　　讃　岐　美智義　　津　崎　晃　一
　　中　塚　秀　輝
オブザーバー：中　村　真　潮　　宮　脇　卓　也

［JSAPIMS 周術期情報システム専門部会］
部　会　長：須加原　一　博
部　会　員：讃　岐　美智義　　澤　　智　博　　長　田　　理　　萩　平　　哲
オブザーバー：足　立　健　彦

［医薬品適正評価対策専門部会］
部　会　長：白　石　義　人
部　会　員：岩　崎　達　雄　　奥　田　泰　久　　北　村　　晶　　中　馬　理一郎

◆　医薬品ガイドライン改定ワーキンググループ
W　G　長：竹　内　　護
メ ン バ ー：稲　田　英　一　　奥　田　泰　久　　奥　富　俊　之　　加　藤　孝　澄
　　齊　藤　洋　司　　讃　井　將　満　　中　尾　正　和　　中　塚　秀　輝
　　長　櫓　　巧　　森　松　博　史　　山　蔭　道　明

［CCP 専 門 部 会］
部　会　長：河　本　昌　志
部　会　員：大　嶽　浩　司　　横　田　美　幸

［麻酔機器・麻酔手技安全対策専門部会］
部　会　長：市　川　高　夫
部　会　員：佐　和　貞　治　　祖父江　和　哉　　萩　平　　哲

◆　麻酔器始業点検改訂ワーキンググループ
W　G　長：中　尾　慎　一
メ ン バ ー：牛　島　一　男　　川　口　昌　彦　　西　川　精　宣

◆　周術期禁煙ガイドライン検討ワーキンググループ
W　G　長：飯　田　宏　樹
メ ン バ ー：甲　斐　哲　也　　久　利　通　興　　中　川　雅　史　　森　松　博　史

◆　気道確保ガイドライン検討ワーキンググループ
W　G　長：市　川　高　夫
メ ン バ ー：磯　野　史　朗　　佐　和　貞　治　　祖父江　和　哉　　西　脇　公　俊
　　福　田　和　彦　　萩　平　　哲

◆　誤薬防止のためのシリンジラベルの薬効別色分けの提言検討ワーキンググループ

W　G　長：祖父江　和　哉
メンバー：須加原　一　博　　鈴　木　利　保　　志　田　恭　子

◆ ICD 制度協議会加盟ワーキンググループ
W　G　長：河　本　昌　志
メンバー：稲　垣　喜　三　　白　石　義　人　　森　本　裕　二

◆ WHO 手術安全ガイドライン・チェックリスト検討ワーキンググループ
W　G　長：近　江　明　文
メンバー：市　川　高　夫　　大　城　匡　勝　　久　利　通　興　　合谷木　　徹
　　西　脇　公　俊　　平　手　博　之　　山　浦　　健

【国際交流委員会】担当常務理事：工　藤　一　大
委　員　長：横　山　正　尚
副委員長：齊　藤　洋　司
委　　員：奥　富　俊　之　　佐　和　貞　治　　中　島　芳　樹
オブザーバー：大　嶽　浩　司

［英語ホームページリニューアル専門部会］
部　会　長：佐　和　貞　治
部　会　員：大　嶽　浩　司　　釘　宮　豊　城

【関連領域検討委員会】担当常務理事：工　藤　一　大
委　員　長：工　藤　一　大
副委員長：住　田　臣　造
委　　員：稲　垣　喜　三　　月　山　　淑　　長　櫓　　巧　　橋　本　　悟

［集中治療領域検討部会］
部　会　長：橋　本　　悟
部　会　員：内　野　博　之　　貝　沼　関　志　　山　口　　修

［ペイン・緩和領域検討部会］
部　会　長：長　櫓　　巧
副部会長：月　山　　淑
部　会　員：岡　本　健一郎　　橋　口　さおり　　服　部　政　治　　細　川　豊　史

【広報委員会】担当常務理事：上　村　裕　一
委　員　長：坂　本　篤　裕
副委員長：上　山　博　史
委　　員：稲　垣　喜　三　　国　沢　卓　之　　坪　川　恒　久　　寺　嶋　克　幸
　　松　本　尚　浩

◆ ホームページリニューアルワーキンググループ
W　G　長：稲　垣　喜　三
メンバー：黒　澤　　温　　坪　川　恒　久

＜特別委員会＞
【救急・心肺蘇生法委員会】担当常務理事：工　藤　一　大
委　員　長：有　村　敏　明
副委員長：足　立　健　彦
委　　員：坂　本　哲　也　　清　水　直　樹　　武　田　吉　正　　田　勢　長一郎
　　多　田　恵　一　　谷　川　攻　一　　谷　口　　巧　　中　川　　隆
　　野々木　　宏

［ＥＣＣ講習会支部担当責任者部会］

部　会　長：多田恵一
副部会長：田勢長一郎
部　会　員：今泉　均（北海道）伊関　憲（東北）
境田康二（関東甲信越・東京）間渕則文（東海北陸）
水本一弘（関西）石川雅巳（中国四国）
漢那朝雄（九州）

◆ 救急救命士の気管挿管実習の現状と今後を考えるワーキンググループ
W　G　長：多田恵一
メンバー：川前金幸　谷川攻一　西脇公俊　森崎　浩

【周術期管理チーム委員会】
委員長：落合亮一
委　員：足立健彦　稲田英一　近江禎子　大嶽浩司
上村裕一　齋藤　繁　中塚秀輝　森崎　浩
オブザーバー：大村昭人　澄川耕二　宮坂勝之

◆ 認定ワーキンググループ
W　G　長：森崎　浩
メンバー：稲田英一　木山秀哉

◆ テキスト作成ワーキンググループ
W　G　長：河本昌志
メンバー：角倉弘行　藤原祥裕　森松博史

◆ セミナーワーキンググループ
W　G　長：木山秀哉
メンバー：上山博史　川股知之　中塚秀輝

◆ 試験問題作成ワーキンググループ
W　G　長：落合亮一
メンバー：石川岳彦　印南靖志　角山正博　近藤一郎
田中　聡　田中直文　長崎　剛　丹羽康則
坊垣昌彦　武藤理香　山浦　健　萬　知子

【支部委員会】
委　員：鈴木健二　鈴木利保　尾﨑　眞　西脇公俊
中尾慎一　齊藤洋司　須加原一博

【支部運営委員会】
（北海道・東北支部）
支部長：鈴木健二
総務委員：石川岳彦　金谷憲明　黒澤　伸
学術委員：廣田和美　山内正憲　山蔭道明
教育委員：岩崎　寛　西川俊昭　堀口　剛　村川雅洋
広報委員：五十州　剛　川前金幸　高畑　治　森本裕二

（東京支部）
支部長：尾﨑　眞
総務委員：坂本篤裕　山崎隆史　萬　知子
学術委員：稲田英一　小森万希子　寺嶋克幸　槇田浩史
教育委員：上園晶一　内野博之　前原康宏
広報委員：澤村成史　森崎　浩　横田美幸

（関東・甲信越支部）
支部長：鈴木利保

総務委員：岡本浩嗣　後藤隆久
学術委員：奥田泰久　川真田樹人　舘田武志
教育委員：北村　昌　小板橋俊哉　齋藤　繁　竹内　護
広報委員：田中　誠　照井克生　松川　隆

（東海・北陸支部）
支部長：西脇公俊
総務委員：岡崎　敦　佐藤重仁　白石義人　宮部雅幸
山崎光章
学術委員：小久保荘太郎　鈴木　照　土田英昭
教育委員：飯田宏樹（学術委員兼任）　藤原祥裕
広報委員：重見研司　祖父江和哉　西田　修

（関西支部）
支部長：中尾慎一
総務委員：足立健彦
学術委員：南　敏明　横野　諭
教育委員：佐和貞治
広報委員：西川精宣
運営委員：上山博史　川口昌彦　川股知之　木内恵子
北川裕利　福田和彦　廣瀬宗孝　廣田喜一
溝渕知司

（中国・四国支部）
支部長：齊藤洋司
総務委員：稲垣喜三　大下修造　賀来隆治　萬家俊博
学術委員：河本昌志　長櫓　巧
教育委員：濱田　宏　松本美志也　森松博史　横山正尚
広報委員：佐倉伸一　白神豪太郎　田中克哉　中塚秀輝

（九州支部）
支部長：須加原一博
総務委員：有村敏明　野口隆之　外　須美夫
学術委員：牛島一男　上村裕一　佐多竹良　山本達郎
教育委員：垣花　学　坂口嘉郎　山浦　健
広報委員：瀬尾勝弘　恒吉勇男　原　哲也

【選挙管理委員会】担当常務理事：工藤一大
委員長：多田恵一
オブザーバー：顧問弁護士

【麻酔博物館事業検討委員会】担当常務理事：上村裕一
委員長：木内恵子
委員：菊地博達　武田純三　土手健太郎　牧野　洋
松木明知　山本　健
館長：釘宮豊城

[ISHA 誘致検討専門部会]
部会長：菊地博達
委員：奥富俊之　齋藤　繁　土手健太郎　中田善規
牧野　洋　松木明知

【ハラスメント対策室】事務局長：工藤一大
委員長：齋藤　繁
委員：木内恵子
オブザーバー：顧問弁護士

【利　益　相　反　委　員　会】担当常務理事：齋　藤　　繁
委　員　長：槇　田　浩　史
副 委 員 長：鈴　木　健　二
オブザーバー：顧 問 弁 護 士

８．　2014 年度関連諸団体委員等一覧

【日　本　医　師　会】
疑義解釈委員会：齋　藤　　繁

【日　本　医　学　会】
評　議　員：外　　須美夫
連 絡 委 員：山　田　芳　嗣
医学用語委員：小　竹　良　文
代　委　員：浅　井　　隆
利益相反委員：槇　田　浩　史

【厚生労働省医道審議会標榜医審査会】
委　　員：稲　田　英　一　　森　本　裕　二　　工　藤　一　大　　土　田　英　昭
　　中　尾　慎　一　　西　脇　公　俊　　上　村　裕　一　　萬　　知　子

【日本専門医機構麻酔科領域専門医委員会】
委　員　長：上　村　裕　一
委　　員：山　田　芳　嗣　　山　口　重　樹　　小板橋　俊　哉　　重　見　研　司
　　中　尾　慎　一

【日本専門医機構麻酔科領域研修委員会】
委　員　長：大　嶽　浩　司
委　　員：森　松　博　史　　鈴　木　健　二　　藤　野　裕　士　　香　取　信　之
　　槇　田　浩　史

【外　科　関　連　学　会　協　議　会】
委　　員：齋　藤　　繁　　落　合　亮　一　　森　崎　　浩

【外科系学会社会保険委員会連合】
処　置　委　員　会　委　員：岩　瀬　良　範
検　査　委　員　会　委　員：土　井　松　幸
実務委員会委員・手術委員会委員：横　田　美　幸
手術委員会（コーディング WG）：澤　　智　博
手術委員会（医療材料・医療機器 WG）：土　井　松　幸
麻酔委員会：山　田　芳　嗣　　落　合　亮　一　　横　田　美　幸

【日　本　救　急　医　療　財　団】
理　　事：花　岡　一　雄
心肺蘇生法委員会委員：多　田　恵　一

【日　本　蘇　生　協　議　会】
理　　事：多　田　恵　一

【3 学 会 合 同 呼 吸 療 法 士 認 定 委 員 会】
派 遣 委 員：落　合　亮　一　　川　前　金　幸　　中　澤　弘　一　　妙　中　信　之
　　山　田　芳　嗣

【日　本　歯　科　麻　酔　学　会】
監　　事：小板橋　俊　哉

【全国MC協議会連絡会幹事会】
幹　　事：多田恵一

【全国医療安全共同行動】
委　　員：西脇公俊

【禁煙推進学術ネットワーク】
委　　員：西脇公俊

【日本医療安全調査機構】
委　　員：西脇公俊

【医療ガス設備等安全確保に係る問題検討委員会】
委　　員：白石義人

【ISO／TC121国内委員会】
委　　員：森松博史

【人工膵臓治療関連学会協議会】
委　　員：藤野裕士

【臓器移植関連学会協議会】
委　　員：齋藤　　繁

【緩和ケア普及啓発事業関連団体協議会】
委　　員：齊藤洋司

【抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロック ガイドライン作成ワーキンググループ】
委　　員：佐倉伸一　角倉弘行　森松博史　中本達夫

【World Federation of Societies of Anesthesiologists (WFSA)】
Executive Committee：稲田英一
○Permanent Committees
Constitution：大嶽浩司
Publications：廣田和美
Safety and Quality of Practice：前川信博
Scientific Affairs：土田英昭
○Subspecialty Committees
Pain Relief：長櫓　　巧
○Working Party
Manpower Committee：山蔭道明
Professional Wellbeing Working Party：森田　　潔

【Asian and Australasian Regional Section (AARS)】
Treasurer：大嶽浩司